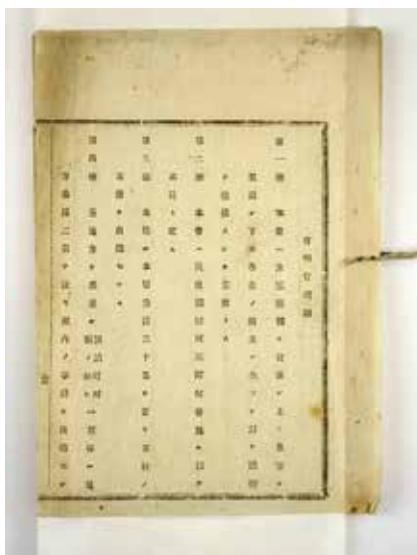


柳川の自由民権運動

市史編さん係 江島 香



「有明会規則」立花（親）家文書。当時の人々の政治に対する意気込みが伝わってくる。10月からの企画展で展示

自由民権運動は、明治7（1874）年1月明治政府の参議だった板垣退助らが「民撰議院設立の建白書」を提出したことに始まります。土佐で立志社を設立した板垣は、明治15年に暴漢に襲われた時に「板垣死すとも自由は死せず」と述べたことで有名です。明治10年代に入ると、運動が盛り上がり各地で「結社」といわれるグループが盛んに作られ、その数は全国で2100を超えるまでに広がります。自由民権運動と聞くと、柳川に関係がない話と感じる人が多いかもしれませんが、この柳川でも結社が設立され、活発な活動が行われていたのです。

九州では、九州連合会という九州地域の結社が参加した会合が、明治11年5月から定期的に開かれていました。明治12年10月には、久留米で九州連合会が開催され、そこには柳川からも参加者がいました。ここで初めて柳川の名前が自由民権運動の活動の中で確認できます。

翌13年2月には、三池郡で壺簪社という結社が設立され、国会開設や条約改正を目指して活動をしていました（同年4月には公同社に名称変更）。一方、柳川城下では協集社という結社が、明治13年4月には存在していました。柳川出身で警視副總監を務め、日本の警察機構の礎を築いた綿貫吉直は、

企画展 柳川の自由民権運動

- 日時 10月1日（木）～11月29日（日）、午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）
- 場所 柳川古文書館

岩倉具視への探偵書の中で、この協集社が国会開設の建言を行う準備をしていることを報告しています。

明治14年9月、壺簪社と協集社は合同で有明会を結成。有明会は、親睦会や政談演説会を開いて政治思想の普及に努め、国会の開設や条約改正を実現しようとししました。同年10月に国会開設の勅諭が出され、明治23年に国会を開設することが政府によって約束されました。しかし、どのような国会になるのか、また議員はどのような形で選ばれるのかなど、詳しいことはその時点で分かっていませんでした。

この勅諭の後、他の地域の政治的対立の影響を受け、主権が天皇にあるのか、国民にあるのかという論争が生じて有明会は分裂します。有明会から脱会した人々は、反民権運動を主張していた旧柳川藩士の渡辺村男と共に白日会を結成。有明会に残った人々は、新たに柳河改進黨を結成しました。

このような政治運動には、士族以外の人々も参加しました。彼らは幕末に締結された不平等条約の改正を目指し、国家的課題を自分たちの身近な問題として解決しようとしていたのです。そのため政治活動に限らず、起業して地域の実力を高める活動も積極的に行いました。柳川古文書館では、10月からこうした人々の姿を企画展でご紹介します。是非ご来場ください。

立花宗茂と闇千代 ドラマプロット

—こんな大河ドラマが見てみたい—

第27話

■文=小山田桐子／憐D & N ■イラスト=大久保ヤマト

※この物語は史実を基に、一部フィクションで作成されています。

【問】市観光課観光推進係 ☎ 77・8563

第4章

奇跡の復活劇、

立花宗茂という武将がいた！⑧

宗茂大好き、二代目將軍・家光
宗茂71歳にして多忙な日々

「將軍のお呼びです。すぐさまおいでください」

慌てた様子の使者に急かされ、宗茂は急ぎ足で江戸城へ向かう。

71歳になる宗茂。しかし、背筋はしゃんと伸び、若い使者よりもしつかりした足取り。秀忠から家光へと將軍の座が移っても、宗茂は重用され続けた。

戦国の世を知らない家光にとって、宗茂は英雄であり、憧れの存在。茶会でも句会でも、家光は真つ先に宗茂を呼び、常に側に置いた。宗茂がいれば上機嫌なので、集まりを企画する者は、真つ先に宗茂の予定を押さえるほどだった。宗茂は太平の世を満喫していた。戦う場所を失った伊達政宗は、存在意義を見失い酒におぼれたが、宗茂は時代の

変化に戸惑うこともなかった。必要とされる場所で、精一杯務めるということは、戦も茶会も変わりなかった。

家光、宗茂に

なんと島原の乱鎮圧を依頼！
周囲の心配をよそに

戦場に立つおじいちゃん大名

「知恵を貸してやってほしいのだ」

急いで駆け付けた宗茂に、家光が告げる。2か月たつても一向に解決しない島原の乱。直接行って、助けてやってほしい、という將軍直々の頼みだった。

宗茂はすぐさま島原へ向かう。久々の戦。71歳だというのに、自ら刀を振るう気満々の宗茂。しかし、総大将の松平信綱らは宗茂を老人扱いし、やつかいなお客さんのように扱う。

しかし、宗茂は空気を読まず、軍議にもどんどん口をは

～人物紹介～

宗茂と共に生きた有名武将たち⑧

本多正信（1538～1616年）

宗茂復帰に陰で尽力したフィクサー。

計算高い男で、家康、秀忠の側

近。未来の持ち駒として利用すべく、浪人中の宗茂を密かにバックアップ。しかし、いつまでも真つ直ぐさを失わない宗茂に、次第に個人的興味を抱く。

